

会 議 録

名 称	令和3年度 目黒区廃棄物減量等推進審議会（第2回）
日 時	令和3年10月4日（月）午前10時～午前11時32分
会 場	目黒区総合庁舎本館地下1階 第19会議室
出席委員 （敬称略）	安井、平尾、そうだ、関、金井、松嶋、原、森銅、小林、長友、関戸、坂本、市毛、斎藤、日比野、大西、杉本、中井
区側職員	橋本環境清掃部長、神清掃リサイクル課長、金元環境保全課長、大迫清掃事務所長
傍 聴 者	0名
配布資料	資料1 令和2年度目黒区のごみ量と資源回収量について 資料2－1 目黒区災害廃棄物処理計画素案について 資料2－2 目黒区災害廃棄物処理計画（素案） 資料2－3 目黒区災害廃棄物処理計画素案（概要版）
会議次第	1 開 会 20人中、出席者は18人であり、半数以上の出席があるため定足数を満たしており、会は成立する。 2 議題 以下、発言者名・名称は下記のとおり表記する。 環境清掃部長・・・・・・・・・・部 長 清掃リサイクル課長・・・・・・リ課長 清掃事務所長・・・・・・・・・・事務所長 環境保全課長・・・・・・・・・・環課長 （1） 令和2年度目黒区のごみ量と資源回収量について リ課長 （資料1により説明） 委員 比較の参考として提示した特別区清掃一部事務組合（通称「一組」）のごみ量に関する調査結果には粗大ごみが含まれていない可能性があるのでは、区で確認してほしい。また、環境省が最近に公表した調査結果では、東京都のごみ排出量が平均871gであり、一組とも大きく数値が異なる。公的機関が出している数値であってもどのような集計をした結果なのかを確認しないと、比較することが難しい。 委員 ごみ量の増加は、新型コロナウイルス（以下「コロナ」という。）の影響で外出自粛の期間は宅配やテイクアウトによる容器のごみが増えたことが要因という区の分析だが、その分析結果を踏まえてどのような対策を考えているか。ごみ減量の周知強化と事業系ごみへの対策も必要に思う。 会長 コロナによる行動変容とごみ量増加の要因分析をどのように行うか。標準的なモデル区民の何名かに調査をして外出自粛とごみの排出との相関関係を確認する方法もある。今のところ感染状況が落ち着いてはいるが、1か月くらい様子を見てからでもいいかもしれない。 委員 前回に他の委員が指摘しているように、極端に排出量が多い世帯について対策することが重要だと思う。ごみの排出に関してコロナの影響が出るのは、食生活で外食の機会が多いと思われる若い単身世帯と推察する。大学でも食べ終えた弁当の容器はプラスチック資源ではなく燃やすごみで出している学生を見かける。 コロナで生活パターンに影響があった世帯についての分析ができればいいとも思う。若者たちへ区のメッセージをどうやって伝えていくかが課題となってくる。方法としては、SNSでの発信も効果があると思う。

委員	プラスチック削減について、マイ容器キャンペーンは良い取組だが、観光客には難しい。プラスチック削減の取組として、店によっては環境に配慮した素材の容器を使っている所もあるが、プラスチック製容器と比較すると提供価格が高いため、消費者が率先して選べるような状況ではない。
会長	生分解プラスチックはあまり国内では使われていないようだ。紙の容器では水や油が染みてしまうので、結局プラスチックコーティングを施すことになる。プラスチック使用を規制することはできないので難しいところである。
委員	世帯構成の特徴だが、一般家庭ではあるものの、料理教室やカルチャースクールを営んでいる所など特殊な世帯もあるように思う。排出量の極端に多い世帯に対して効果的な対策を講じるためにも、実態を調べることが重要である。
委員	不動産業を営んでおり、賃貸住宅の入居者へはMGR100のパフレットを渡している。周知については、更に強化を図りたいと思う。
委員	プラスチック削減は以前から意識しているところだが、レジ袋有料化で一気にレジ袋の辞退者が増えた。こういったことから、やはり区全体での機運醸成と規制が必要だと思う。海外では既にプラスチックストローの規制が行われており、ストローのついていない紙パック飲料もあるようだ。
会長	日本と海外では消費者の意識が異なっている。日本ではストローなど不足があると文句を言うが海外では自分で用意することの方が多い。このような文化の違いもあり、意識を根本から変えていくことができるかどうかが課題である。
委員	不況が続く中で、コロナにより生活困窮者は増えてきたと思う。生活困窮者は環境に配慮することよりも少しでも支払額を安くしたいということにしか意識が向かない。住民へ経済的な負担をかける施策ではうまくいかない。レジ袋有料化は、かなり効果があったように思う。
委員	リサイクル率が向上していないので、リサイクルすることに力を入れる観点も必要ではないか。国内や区内で処理できるリサイクル循環系をつくることが重要だと思う。
委員	ごみのことに関して情報共有したいことがある。マンションの共有廊下にごみが放置されることがあった。防犯カメラ設置したら解決した。
会長	各自の意識が重要であるという事例。コロナで環境に対する意識が緩んでしまった印象がある。これを踏まえてどのような施策を打つか知恵を出す必要がある。
(2) 目黒区災害廃棄物処理計画素案について	
事務所長	(資料2-1、2-2、2-3により説明)
委員	廃棄物処理の他にもライフライン復旧、住民救助なども同時並行で行政は対応すると思われる。他の部署で策定している災害関連の計画との擦り合わせを検討しているか。
事務所長	区全体の災害計画である地域防災計画と整合性をとっていく。計画も検討部会には保健衛生部門や防災部門が入っている。
委員	阪神淡路大震災を経験した。生命に関わるのが最優先で、廃棄物処理を気にする余裕はなかった。ただ、大量のごみが出たことは記憶している。仮置き場の広さについては想定よりも過大に見積もったほうがいい。発災してから速やかに自衛隊が通行できるようにする必要がある。当時は建設機械を持つ事業者が協定を結んでいないにもかかわらず瓦礫の撤去をしてくれた。このような連携が重要であると強く印象に残っている。被災すると情報が分断されるので、普段からのコミュニケーションが課題となる。避難訓練などの機会があった方がいい。一方で、危機管理に関しては区からの発信では身構える区民も少なからずいると思うので、NPOや社団法人などが発信したほうがいいこともあると思う。
事務所長	区では年に一度防災訓練を行っており、避難所運営訓練は年に数回行っているところもある。防災訓練の中で防災所管と連携して廃棄物に関しても示していく必要がある。

	委員 有害物の処理について、区内で有害物を多く取り扱っている事業者等の所在を区で把握しているか。 事務所長 農薬、PCB と医療機関等からの感染性廃棄物については、清掃事務所で把握している。 環課長 有害化学物質については、東京都の環境確保条例に基づき工場の認可指導を行っており、その中で適正に管理されていることを確認している。 委員 有害化学物質の流出についてはどうか。 環課長 有害化学物質が流出した場合の対応については、改めて確認の上、回答する。 (3) その他 リ課長 施設見学会の出欠についてお知らせしている期日までに事務局へ連絡してほしい。見学会参加の委員には後日通知を送付する。 次回審議会は令和4年1月31日（月）に開催する。 3 閉 会 以 上
--	---